

(一財)北海道開発協会では、非営利の市民団体が行う地域活性化活動に対して平成14年度から助成を行っており、これまで145件の活動に支援を行ってきました。これらの活動がさらに発展していくよう平成20年度から助成を受けた団体の方々が活動成果等を発表し、参加者同士が地域づくりについて自由な意見交換をしていただく「助成活動発表会」を開催しています。今回は、令和元（平成31）年度に助成を受け活動された8団体の成果を紹介いたします。

クローズアップ

## 令和2年度 地域活性化活動発表会 各地で展開する地域活性化活動をサポート

(一財)北海道開発協会開発調査総合研究所

### 利尻の雑海藻に新たな価値を

活動名：「利尻海藻押し葉・押し花融合作品」全国コンクール開催事業

NPO法人利尻ふる里・島づくりセンター 安田 志穂氏

利尻海藻押し葉を使った取組みは、今から20年前押し花作家の武田りょう氏を中心に地元の押し花愛好者達により、浜に打ち上げられた食用にならずに漁の妨げとなる雑海藻をアートに使用するという、資源蘇生を理念とした活動として始まりました。



『島の駅』という築120年前の古民家を活動拠点に、当時海産物を貯蔵した石蔵に海藻押し葉ほか多数の作品が展示され、多くの方々に鑑賞していただいています。

2018年には、北海道開基150年の記念式典に来道した上皇・上皇皇后両陛下の献上品として、利尻海藻押し葉の額絵が選ばれ献上されました。

今回の取組みは、2019年『令和の時代に向けて』をテーマに海藻押し葉と押し花の融合アート作品のコンクールを開催し、全国の押し花愛好者から175点の応募があり、利尻町町民文化センター『どんと』にて9月21日～30日の期間、作品の展示と最終日は受賞者の表彰式が行われました。会場の設営では、漁師さんから借りた昆布の乾燥台を利用し展示するなど利尻らしさを演出しました。海藻押し葉を全国に周知するため関東や九州で移動展を計画しましたが、新型コロナウイルスの感染拡大により本州の移動展を自粛し、離島キッチン札幌店での展示会と、その模様を動画にしたオンライン展示会の2つを開催しました。展示会は多くの方々に鑑賞いただき、利尻の独自文化を知っていただく良い機会となりました。

今後は次世代への文化の継承と島内外への周知を念

頭に置きながら、海藻押し葉アートの独特な色合いやユニークさ、癒し効果を教育や福祉の現場で活かしたいと考えています。利尻は自然や食の素晴らしさだけではなく、アートで環境に取り組み町としても知っていたき、今後の交流人口増加に繋げたいと考えています。

### 道北地域の周遊観光促進へ

活動名：道北フォトツーリズム推進事業～フォトツーリズムで、きた北海道周遊！)

シーニックバイウェイ北海道

道北ルート連携フォトコンテスト実行委員会 菊地 晴夫氏



当団体では、平成26年度より道北地域の周遊観光を促すため、宗谷シーニックバイウェイ、萌える天北オロロンルート、天塩川シーニックバイウェイ、大雪・富良野ルートの4ルートが連携した「道北ルート連携フォトコンテスト（以下、コンテストという。）」を開催しています。

コンテストの応募には、道北4ルートの内、2ルート以上で撮影した写真の提出が必要です。これまで1,100点以上の作品が集まり、様々な美しい景観が発覚され、知られざる絶景の作品も集まっています。

近年は、スマートフォンの普及によって、SNSでの画像共有も一般的になってきました。

今回の助成活動では、このような写真撮影人口の裾野の拡がりに対応することで、より道北地域への誘客や滞在が見込まれるものと考え、過去の受賞作品を掲載したフォトブックを作成し、ライトな写真愛好家にも支持される「道北フォトツーリズム」（主に道北地方の景観資源を撮影する個人旅行）を提案するため、フォトブック6,000部（2020.8発行）の作成とその効

果検証を目的とした読者アンケートを行いました。

フォトブックの製作では、親しみやすい表紙、フォトコンテストへの二次元バーコードによる誘導、撮影マナー、マップコードによる撮影地への誘導、ルート内の立ち寄り箇所を紹介するなど工夫をしました。

またフォトブックが道北地域に関心をひきつけられるかの効果検証を目的としたアンケート結果では、回答者の6割以上が女性からの回答で、特に若い方の回答が多くみられました。回答者の撮影機材は、スマートフォン、デジタル一眼レフカメラ、コンパクトデジタルカメラの順に多くなっていました。

「撮影された地域や場所に訪れたいか」との設問には、8割が訪れたいと回答され、該当地域への訪問意欲を底上げするツールになる可能性が把握できました。

今後、コロナ禍の影響を避けて個人旅行が主流となっていく際、フォトブックの様なツールに対する需要が高まっていくと考え、おすすめの撮影ルートや撮影テクニックなどの情報を加え、よりニーズにあったフォトブックを発行したいと考えています。

## SNSを活用した天塩町のファン獲得

活動名：住民協働による「天塩の國眠れる地域資源グローバル活用プロジェクト」

天塩かわまちづくり協議会 金澤 文哉 氏



天塩かわまちづくり協議会では、天塩町のファンを増やすため、地域住民や関係機関が参加した「SNS活用ワークショップ」を開き、Instagramを活用した「てしお川インス「夕」映えフォトコンテスト」、ゆるきゃら「てしお仮面」のLINEスタンプ制作、道の駅モデルコース制作、レンタサイクルのモニタリング検証などの取り組みを行いました。

てしお川インス「夕」映えフォトコンテストは、天塩町の魅力を地元の人にも再発見していただき、また道内外の人々に魅力を伝えようとする取り組みです。

応募は、撮影した写真をInstagramで投稿します。投稿された中から「いいね」の数が多い上位3作品を入賞として選考します。今回のコンテストでは152点が投稿され、地元の方が参加するなど地域資源を再認識する良い機会となりました。また活動の様子や審査結果は、北海道新聞でも取り上げられました。

レンタサイクルのモニタリング検証では、年間約30万人が来訪する「道の駅てしお」と、「てしお温泉夕映」にレンタサイクルを試験的に設置。河川空間整備が進む天塩川河川公園に町外の訪問者を誘客し、利用ニーズを把握しました。利用促進には日本語版の他、英語版、中国版のポスターを制作しました。

モニタリングのアンケートには、利用者72名（道の駅29名、てしお温泉夕映34名）に回答いただきました。

アンケートの集計結果では、レンタサイクルの平均貸出時間は、約1時間程度。てしお温泉夕映の利用者は主に出張で来た男性宿泊客の利用が多く、道の駅は観光や散策目的で来た利用者が多い状況です。利用したきっかけは、道の駅及び夕映えとも現地で知った方が多くいました。利用者の大半が満足と回答するなか、無料だから利用した、との回答も確認しています。今後の事業化において料金設定や利用に向けた周知などの検討が必要と考えています。

この他、道の駅てしおに来た人に目的別モデルコースとして、来訪者の趣向や特性にマッチした周遊マップも作成しました。今後も当協議会の活動を通じて、天塩町の魅力を発信したいと考えています。

## 実践から学ぶ商品開発

活動名：素材供給基地からの脱却～市場ニーズに対応した高付加価値商品開発ノウハウの習得～

NPO法人 創成塾 石原 基 氏



NPO法人創成塾は、東京農業大学で社会人を対象とした「オホーツクものづくり・ビジネス地域創成塾」の修了生を中心として結成された団体です。現在は一般の方も入会し、会員は40名となりました。当団体は、ものづくりを通じ、地域の環境資源の保全と有効利用に関心を持つ、一般市民や事業者に対して、主に商品販売に係るものとセミナー（勉強会）等に関する活動を行っています。

今回の助成活動では、商品開発において市場ニーズを把握せずに行うことがあり、その課題解決に向けた集合型のセミナーとワークショップを2020年3月に開催を予定しました。しかし、新型コロナウイルスの影響によってオンラインでのセミナーとして9月と10月の2回に分け実施しました。

1回目は、島根県<sup>おのなん</sup>邑南町役場に勤務する寺本さんの取り組みです。島根県に町営レストランを作り、シェフを地域おこし協力隊として募集し3年間の修業後、街でレストランを開業してもらう取り組みを行いました。9年間に参加された協力隊は50名で、8名が町に残りレストランを開業している実績を残し、それらの取り組みについて講演をいただきました。

2回目は、埼玉県で食用花の加工・販売する田中さんの取り組みです。大好きなバラの生産とジャム、化粧品などを作る6次産業に組み、その問題点や商品開発における姿勢について講演をいただきました。

これら2回のセミナーを受け、今後は地域資源を活用し発信するだけでなく、人を呼び込む活動にも取り組み、またものづくりでは技術を提携して開発することの重要性を再認識したことから生産者と製造者が繋がる活動も行っていきたいと考えています。

### 通年型体験観光への取り組み

活動名：下川町の自然資源を活用した通年観光プロジェクト  
NPO法人しもかわ観光協会 高松 峰成氏 園部 峻久氏



下川町の豊かな自然資源を活用し、通年観光を目指した活動は、リバーウォーク、スノーシューイング、フローイング、レンタサイクル、カヌーツアーを実施しました。

リバーウォークは、名寄川の支流で活動に適した川を選び、現地テストとモニターツアーを踏まえブラッシュアップを重ねました。実施期間は5～10月で、4つのコースを遡上するプログラムとして、滝にうたれる、泳ぐなどの川遊び全般の体験を行います。2019～2020年度のツアー数は24回88名が参加しました。

スノーシューイングは、積雪から3月末まで楽しめる冬期体験プログラムで、夏には踏み入ることが困難な小さな川を上ります。2019～2020年度のツアー数は8回で25名が参加しました。

フローイングは、ウエットスーツ、ライフジャケット、ヘルメットを装着し、名寄川で“泳ぐ、流れる、飛び込む、流される”体験をします。現在はモニターツアーの段階で、来年7～9月初旬に実施予定です。

川のアクティビティでは、安全面に十分な配慮が必要です。今回、RESCUE 3 JAPAN<sup>\*1</sup>の認定講師を招き

急流救助活動の講座やファーストレスポנダーの講習<sup>\*2</sup>を受け緊急時に備えたスキルアップを図りました。

レンタサイクルの実施では、クロスバイクの購入によって、より快適なサイクリングを楽しんでいただき、また町民ガイドによる“しもかわポタリング<sup>\*3</sup>ガイドツアー”も行いました。

これらの体験プログラムは、当協会のYouTubeチャンネル「Asobasalチャンネル」で配信するなど、PR活動と併せながら活動を継続したいと思います。

### 次世代に繋ぐ炭鉱遺産と地域の記憶

活動名：炭鉱遺産を活用したとにも歩むまちづくり「清水沢エコミュージアム」活動の推進

一般社団法人 清水沢プロジェクト 佐藤 真奈美氏



清水沢プロジェクトは、炭鉱遺産を活用し、地域内外の人々が共に歩むまちづくりを目指した活動を行っています。2009年に独自に企画した「清水沢エコミュージアム構想」が、2016年に夕張市の施策に取り入れられました。

今回の活動は、炭鉱遺産の保存と地域資源の利活用がメインコンテンツとなり、そのほか清水沢コミュニティゲートの運営、みんなで作る夕張の記憶ミュージアムなどの活動を行いました。

炭鉱遺産の保存活動では、大正15年に完成した旧北炭清水沢火力発電所（建物の3/4を解体し一時中断）において、事業者の厚意でガイドツアーを行っています。ツアーは、必ず一組のお客と一人のガイドが対話することで施設の意義を考える場として行います。2020年はコロナ禍の影響で、道外のお客が前年に比べ6割減少しましたが、道内の方は減りませんでした。

夕張市の清水沢地区にある市内に残る最後の炭鉱地区浴場は、住宅の集約事業による風呂なし住宅の解消で存廃が問われますが、地域コミュニティーの場として維持しようと利用者増加の取り組みを行いました。

活動拠点の清水沢コミュニティゲートは、炭鉱住宅を改修し、交流施設として2016年から当団体が施設管理を行っています。施設では、子ども食堂や観光案内の他、芸術家の活動拠点として地域の一員として制作活動を行っています。

みんなで作る夕張の記憶ミュージアムの活動で

\*1 RESCUE3JAPANは、アメリカ・カリフォルニア州に総本部がある民間組織の日本支部で、主な活動は、様々な分野の救助に関する訓練プログラムの構築と講習を行っています。

\*2 川での事故に対し、個人やチームで対処する際の考え方や行動をどうとるべきか意識できる人間の育成を目的とした講習。

\*3 ポタリングは、気軽な自転車での散歩を意味します。



は、自宅の筆筒などに眠る写真を集めデータ化しWeb上で公開しました。これらの写真は市内の高齢者施設で認知症予防の脳トレとしても利用されています。

地域の記憶や炭鉱遺産を地域の糧に、次の世代に引き継いでいける活動として今後も取り組んでいきます。

## 夏季・冬季体験型ツアーと新商品じゃがタルト

活動名：ニセコ・羊蹄山麓の地域資源である雪・農・食を活用した新商品及び観光コンテンツの開発  
NPO法人 WAOニセコ羊蹄再発見の会 中前 千佳 氏



倶知安町の地域資源である雪・農・食を活用した体験型ツアーと地域資源を活用した新商品開発・販売支援の取組みを行いました。

体験型ツアーは、夏季の農作業体験ツアーと、冬季の除雪ボランティアツアーを企画しました。

農作業体験ツアーは、令和元年9月7日に札幌の方を対象に行いました。ツアーでは、じゃがいもの収穫体験のほか、昼に地元の新鮮野菜の料理をいただき、午後は街中のスイーツ店をめぐるツアーです。40名の定員は募集開始1週間で完売し大変盛況でした。

除雪ボランティアツアーは、令和2年2月9日に40名が参加し行いました。ツアーは、午前中に倶知安町の高齢世帯で雪かきを行い、午後は雪の下に埋めたじゃがいも掘り体験をしました。いずれのツアーも参加者からは満足との意見をいただきました。

地域資源を活用した新商品開発・販売支援の取組みは、倶知安町のじゃがいもを使ったお土産づくりを検討し、町のお菓子屋さんが講師となって「じゃがいもスイートポテト」の商品開発を行いました。試食会では119名がアンケートに回答いただき、商品を見て食べたいと思った方は約9割。焦げ目がおいしそう。じゃがいものタルトが珍しいなどの評価をいただきました。商品開発では、春先に摘んだイタドリ<sup>イタドリ</sup>の芽を煮詰めたジャムをスイートポテトに合わせて焼き上げており、甘さと酸味がちょうどよいという評価もいただいています。商品名とパッケージデザインは、倶知安町のゆるキャラ「じゃが太くん」をモチーフにデザインされ、商品名は「じゃがタルト」に決まりました。販売価格は6個入り1,200円です。

今回開発した新商品は商標登録を行い、積極的に広

報・PRしていきます。また今後も地域内の農業関係者や観光関係者及び地域外の関係機関と連携し、地域ブランドの構築に向けて、雪や農、食を活用した通年の体験型ツーリズムの観光コンテンツの開発や、新商品開発を継続していく予定です。

## 丘の上の東屋から広がる地域の魅力発信

活動名：道の駅及びシーニックカフェを拠点とした地域内経済循環及び魅力発信事業  
十勝シーニックバイウェイ南十勝夢街道忠類地域部会

加藤 茂樹 氏



シーニックカフェちゅうるいは、忠類共栄牧場内の小高い丘に東屋がある長閑な<sup>のどか</sup>雰囲気が楽しめる場所です。東屋は、旧忠類村時代にハイキングコースの休憩所として建てたもので、名古屋市からの移住者が東屋から望む絶景に感動したのが活動を行うきっかけとなっています。

カフェからの眺めは、日高山脈を背景に田園風景や、牧草収穫作業を行うハーベスタの機械とダンプが並走する情景。また牧草ロールやそれを積んだ大型トラックが行き来する光景などが見られ、時にはカフェ手前の柵に集まる放牧牛が見られたりします。

カフェを設置してから14年が経ち、今では町の理解も得られるようになり、水道や電気が引かれ、さらに物置とトイレも設置されました。

助成申請以前から、道の駅からの来訪者が増加し、また道の駅に隣接するアルコ236ホテルでは、宿泊客に綺麗な風景を見せたいとバスを出してカフェに訪れるようになりました。

今回の活動では、町の活性化に寄与するため道の駅や飲食店で使用できる割引クーポン券をカフェ利用者に提供したことで、地元飲食店や道の駅の利用者が増えました。またデジタルサイネージの活用やFacebookによる情報発信回数が増えたことで、他団体との連携ができるようにもなりました。

今後は、音楽フェスの開催、地元工芸家による作品展示や特産品の展示販売などを行いたいと考えています。また学校シーニックバイウェイ<sup>\*4</sup>では、地元の子供達に地域情報や歴史・文化を伝承し、若い世代に魅力を繋げていきたいと思っています。

\*4 学校の授業等の中で、子ども達へシーニックバイウェイの思想を伝えながら、おもてなしの心を養うための諸活動。